心理科学部臨床心理学科
総合型選抜

総合型選抜　課題レポート

2022年度　北海道医療大学　心理科学部　臨床心理学科　総合型選抜

課題レポート問題

【設問】

課題文では「生きがい」ということばの持ついくつかの側面が説明されています。このように、「生きがい」というのはいくつもの意味があるようです。課題文を参考にして、できればあなたの経験を踏まえて、なるべく多くの種類の「生きがい」に関する例を挙げてください。そして、最後に生きがいを得る方法についてあなたの提案を述べ、全体として1200字以内にまとめてください。

【課題文】

生きがいということばは、日本語だけにあるらしい。こういうことばがあるということは日本人の心の生活のなかで、生きる目的や意味や価値が問題にされて来たことを示すものであろう。たとえそれがあまり深い反省や思索をこめて用いられて来たのではないにせよ、日本人がただ漫然と生の流れに流されて来たのではないことがうかがえる。

辞書によると生きがいとは「世に生きているだけの効力、生きているしあわせ、利益、効験」などとある。これを英、独、仏などの外国語に訳そうとすると、「生きるに値する」とか、「生きる価値または意味のある」などとするほかはないらしい。こうした論理的、哲学的概念にくらべると、生きがいということばにはいかにも日本語らしいあいまいさと、それゆえの余韻とふくらみがある。それは日本人の心理の非合理性、直観性をよくあらわしているとともに、人間の感じる生きがいというものの、ひとくちにはいい切れない複雑なニュアンスを、かえってよく表現しているのかも知れない。フランス語でいう存在理由（レーゾン・デートル）とあまりちがわないかも知れないが、生きがいという表現にはもっと具体的、生活的なふくみがあるから、むしろ生存理由 raison de vivre, raison d'existence といったほうがよさそうに思える。

もうひとつ生きがいに似たことばに、はりあいというのがある。これも西洋語にないようであるが、これは生きがいの一面をよくあらわしていると思う。人間はただ真空のなかでぽつんと生きているのは耐えがたいもので、自分の生きていることに対して、自分をとりまく世界から、何かてごたえを感じないと心身共に健康に生きて行きにくいものらしい。これはいわゆる感覚遮断の実験によってもよく証明される。宇宙の孤独な旅びとも自分を見まもる地球上のひとの眼を感じればこそ、無重力への冒険に生きがいを感じるのであろう。美を求める心の強いひとが一枚の絵に強い感動をうけるときも、そのよろこびのなかには、ああ、こんな美しいものにめぐりあえるとは私も生きているはりあいがあった、という感激が意識的にせよ、無意識的にせよ、ふくまれている。美を求めてやまない心に対して世界が応（こた）えてくれたことへの感激である。

生きがいということばの使いかたには、ふた通りある。この子は私の生きがいです、などという場合のように生きがいの源泉、または対象となるものを指すときと、生きがいを感じている精神状態を意味するときと、このふたつである。このうち、あとのほうはフランクルの言う「意味感」にちかい。これをここでは一応、「生きがい感」とよぶことにして、前のほうの「生きがい」そのものと区別して行きたい。

（出典：神谷美恵子（2004）「神谷美恵子コレクション　生きがいについて」みすず書房.）